



油性フェルトペンは、消しゴムでどうして消えないの

鉛筆のしんのつぶは、紙の上のっている

チョークで黒板に字を書いた後、黒板をよく見ると、黒板の上に、チョークがのっているのがわかります。黒板ふきで字を消すと、字が消えて、チョークの粉が落ちます。

消しゴムには、ゴムでできているものと、プラスチックでできているものがありますが、最近では、プラスチックのものが、多くなりました。ゴムでできていないので、消しゴムというもおかしいので、字消しとよばれることが、多いようです。

鉛筆で書いた字を、虫めがねや顕微鏡で見ると、紙の上に、細かい鉛筆のしんのつぶがのっているのが、わかります。

油性フェルトペンは紙にしみこむ

ゴム製の消しゴムは、紙の表面を少しけずり取って、字を消します。プラスチック製のものは、鉛筆のしんの粉を、つつみ取るようにして、消していきます。

油性のフェルトペンで、紙の上などに字を書くと、書いた字が、紙の中までしみこんでしまいます。紙がうすいときは、紙の裏までしみ通ってしまいます。

このために、消しゴムで、紙の表面をいくらこすっても、字を消すことは、できないのです。（監修・青木 国夫）

